

わたしは主、あなたの名を呼ぶ者

イザヤ書 45 : 1 - 7



司祭 ヨハネ 井田 泉

2023年10月22日

聖霊降臨後第21主日

聖光教会にて

先週は韓国を旅行しまして、主日は大韓聖公会ソウル主教座聖堂（ソウル大聖堂）のミサに出席しました。その印象を少しお話ししたいと思います。

大聖堂の主日のミサは 5 回行われていて、わたしたちは 2 回目、午前 10 時からの礼拝に参加しました。会衆は 350 人くらいかと思います。韓国では普通にミサと言っていますが、正式の名称は「感謝聖餐礼」です。まず最初から香を焚く、礼拝中に何度も香を振るのが印象的でした。ハイチャーチの伝統です。

全体的に感じたのは、礼拝が美しくて清らかでしかも力強い、ということです。聖歌隊がよく訓練されていて、清らかな祈りの空気が聖堂に満ちていました。全体が歌ミサです。司祭は感謝聖別の祈りの一部も歌います。音楽が多く用いられていました。ミサをとおして、地上で前もって天国の宴にあずかる、ということが感じられます。

次に感じたことは、聖書朗読、特に福音書朗読を大切にしている、ということです。聖歌隊が歌う中、福音書朗読担当の司祭（女性でした）が進み出て、聖書の置かれている聖卓の前で深くお辞儀しました。10 秒近く頭を下げたままです。後から聞いたのですが、ここでこういう祈りが献げられているそうです。

「全能の神よ、わたしの唇と心を清め、あなたの聖なる福音を宣べ伝えるにふさわしい者としてください。」

それから聖卓から聖書を取って、会衆のほうに行き、朗読の前に「アレルヤ、アレルヤ……」と歌いました。これを「福音歓呼頌」というようです。福音を歓呼して迎える歌。この様子を見ながら、集まった人々がどんなに深い祈りと求めをもって福音の言葉を聞こうとしているかを感じて感動しました。

陪餐（領聖体）は、初め2組で、会衆は中央を前に進んで左右に分かれて受けていましたが、途中から2組増えて4組になり、ある程度時間が進むとまた元の2組に戻っていました。分餐者の一人はシスターでした。聖職をはじめサーバー、アコライトの動きが非常に自然で、皆が礼拝に集中できるように訓練がよくなされているのが感じられました。

聖餐式の終わり、祝福に続く派遣の言葉が印象的でした。わたしたちの礼拝では「ハレルヤ、主とともに行きましょう／ハレルヤ、主のみ名によって、アーメン」というのですが、そこで歌われたのは

♪「出て行って福音を伝えましょう／キリストのみ名によって、アーメン」

という言葉でした。福音宣教に対する積極的な姿勢を感じます。後で聞いたところ、「出て行って主の愛を分かち合いましょう」という言葉を用いることもあるそうです。

さて今日の旧約聖書イザヤ書第 45 章 1～7 節を読んで気づいたことがあります。それは同じ言葉が4回も繰り返されていることです。それは「わたしは主」という言葉です。確かめてみましょう。

「あなたは知ようになる／わたしは主、あなたの名を呼ぶ者／イスラエルの神である、と。」45:3

「わたしが主、ほかにはいない。わたしをおいて神はない。」

45:5

「わたしが主、ほかにはいない。」45:6

「わたしが主、これらのことをするものである。」45:7

わずか7節の間に、「わたしは（が）主」という言葉が4回も繰り返されています。

信仰生活の上の危うさというものがあります。それは、わたしたちが信じる相手である神さまを見失うことです。また礼拝するとき、その礼拝の対象、祈る相手である神さまを忘れてしまって口先だけになってしまうことがあります。神さまを見失い、あるいは忘れるとき、わたしたちは危険に陥ります。そうすると、あるときはわたしたちは非常な不安に陥る。あるときは、神さまなしでやっていけるかのような傲慢に陥る。

しかし今日のイザヤ書の言葉は、そのようなわたしたちを救ってくれます。神さまを見失い、あるいは忘れてしまうわたしたちの前に、神みずからが現れて断固として宣言されます。

**「わたしは主、あなたの名を呼ぶ者」**

**「わたしが主、ほかにはいない」**

わたしたちが困難を負ってうずくまるとき、「わたしは」「わたしが」と宣言される方がおられる。ほかのだれでもない「わたし」、神さまにわたしたちの関心が引きつけられます。

**「わたしが主」**。神が主、主権を持たれる方であり、わたしたちを救うことのできる方なのです。

愚かにも不安に陥るわたしたちの不安は静められ、愚かにも傲慢に陥るわたしたちの傲慢は打ち砕かれます。

**「わたしは主、あなたの名を呼ぶ者」**

神はわたしたちの名を呼ばれます。神がわたしを呼ばれる声は漠然とあたりを漂う声ではなく、わたしに命中する声です。わたしの心を射当て、わたしを捕まえる声です。

**「わたしは主、あなたの名を呼ぶ者」**

イスラエルを呼ばれた神が、サアカイを呼ばれたイエスが、マルタを呼ばれたイエスさまが、わたしの名を呼ばれます。

この方に名を呼ばれたわたしたちは、わたしたちのほうからも新しくこの方を呼びます。

「神さま」「主イエスさま」

こうして、名を呼び呼ばれる神とわたしたちの関係は建て直されます。わたしたちの信仰が再建されます。

祈りましょう。

主なる神さま、あなたが今日の聖書をとおして言われたように、わたしたちの名を呼んでください。あなたがわたしの名を呼んでいてくださることを教えてください。そのことをはっきりと知って、わたしたちもあなたの名を呼ぶようにしてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン